

2014年7月10日 全8頁

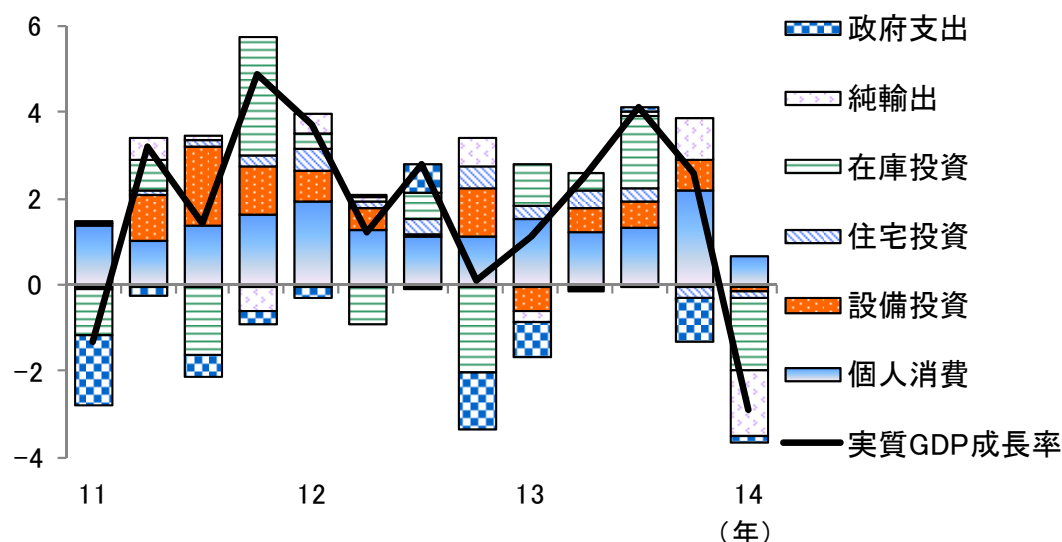
アメリカ経済グラフポケット(2014年7月号)

2014年7月8日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美
経済調査部 エコノミスト 笠原 滝平

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



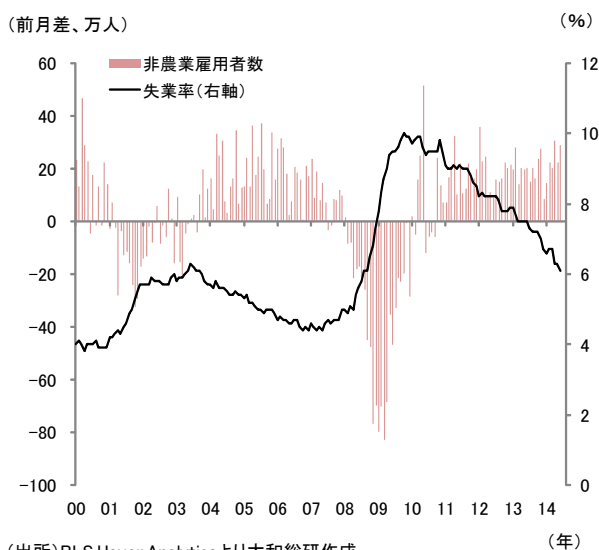
	2012			2013				2014
(前期比年率、%、%pt)	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
国内総生産	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5	4.1	2.6	-2.9
個人消費	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8	2.0	3.3	1.0
設備投資	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.7	4.8	5.7	-1.2
住宅投資	5.7	14.1	19.8	12.5	14.2	10.3	-7.9	-4.2
政府支出	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.4	0.4	-5.2	-0.8
輸出	3.8	0.4	1.1	-1.3	8.0	3.9	9.5	-8.9
輸入	2.5	0.5	-3.1	0.6	6.9	2.4	1.5	1.8
寄与度								
個人消費	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2	1.4	2.2	0.7
設備投資	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.6	0.6	0.7	-0.1
住宅投資	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4	0.3	-0.3	-0.1
在庫投資	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.4	1.7	-0.0	-1.7
政府支出	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.1	0.1	-1.0	-0.1
輸出	0.5	0.1	0.2	-0.2	1.0	0.5	1.2	-1.3
輸入	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.1	-0.4	-0.2	-0.3

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

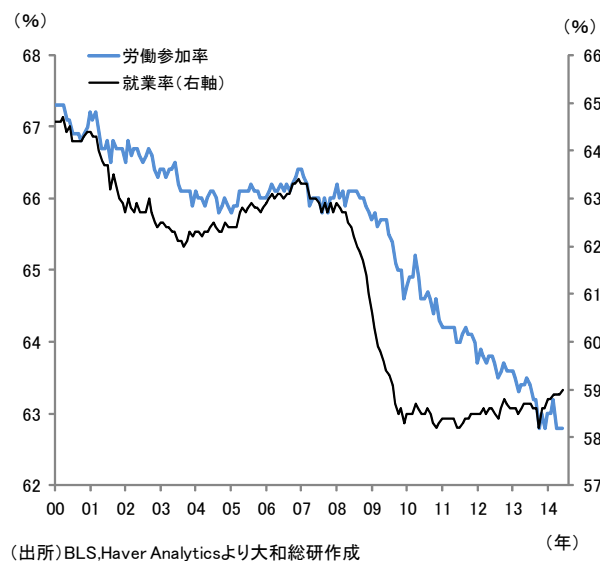
雇用環境¹

- ◆ 6月の失業率は6.1%と前月から0.2%ポイント低下した。
- ◆ 非農業雇用者数は前月差28.8万人増で、前月から増加幅が拡大した。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は23.1万人増と、再び20万人台に回復した。しかし、労働参加率は横ばいで、低水準で推移している。

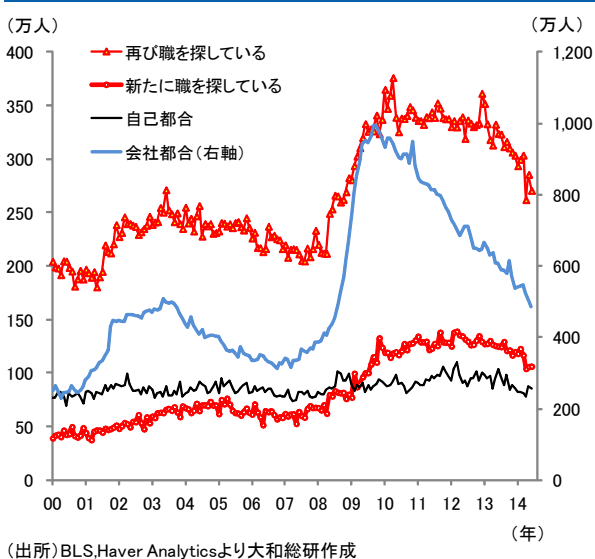
非農業雇用者数と失業率



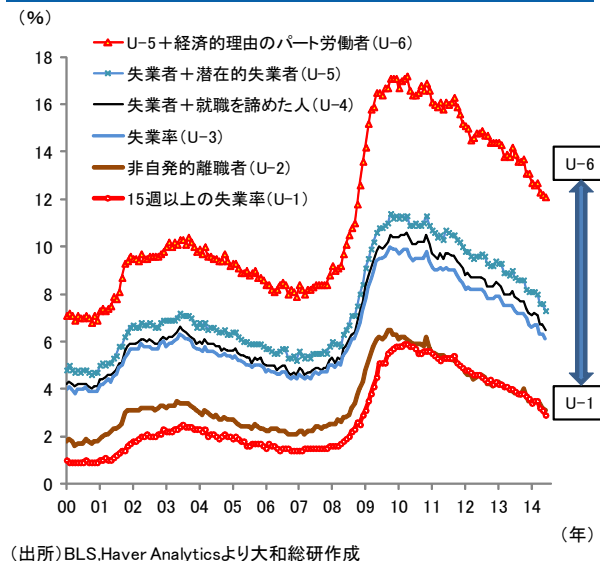
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率



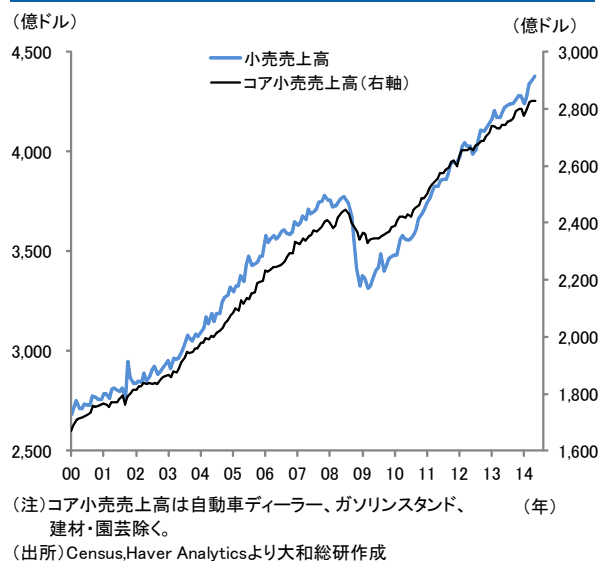
¹ 大和総研 経済調査部 笠原 滝平、ニューヨークリサーチセンター 土屋貴裕「米国の労働市場は堅調な量的改善が続く」(2014年7月4日)参照。

http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20140704_008727.html

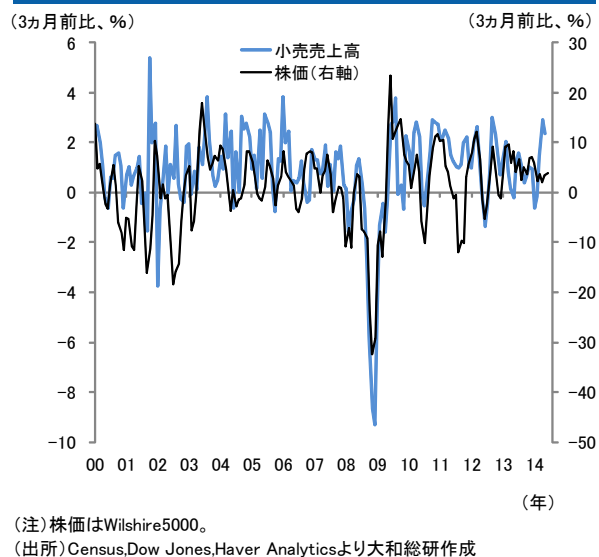
個人消費

- ◆ 5月の小売売上高は前月比0.3%増で、4ヵ月連続で増加した。コア小売売上高は同0.1%減であった。
- ◆ 6月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の81.9から82.5に上昇した。
- ◆ 6月の自動車販売台数は前月比1.2%増で、年率換算では1,698万台であった。2006年1月以来の高水準を記録した。

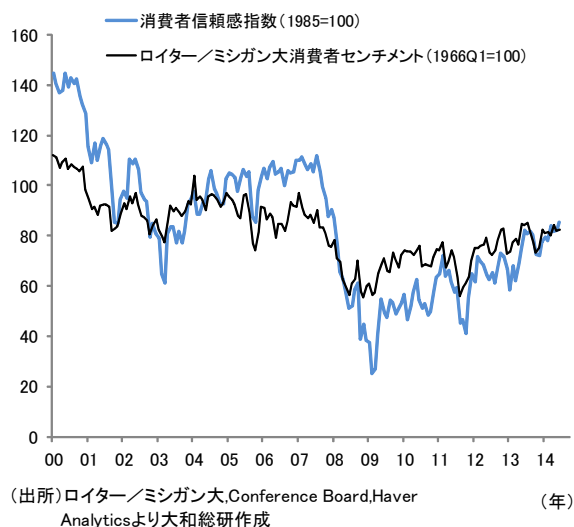
小売売上高の推移



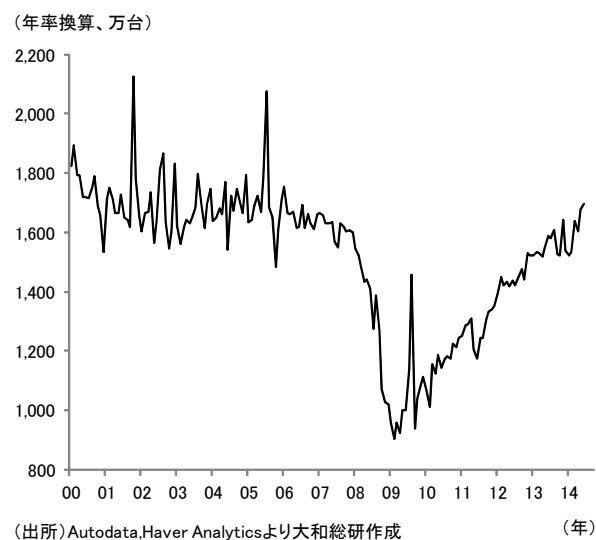
消費と株価



消費者マインド



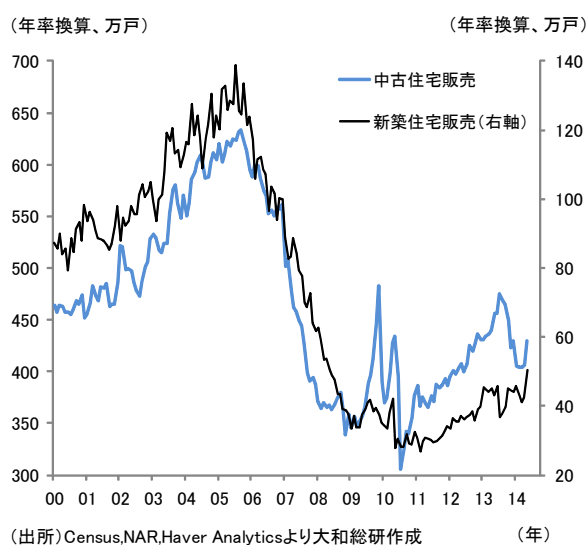
自動車販売台数



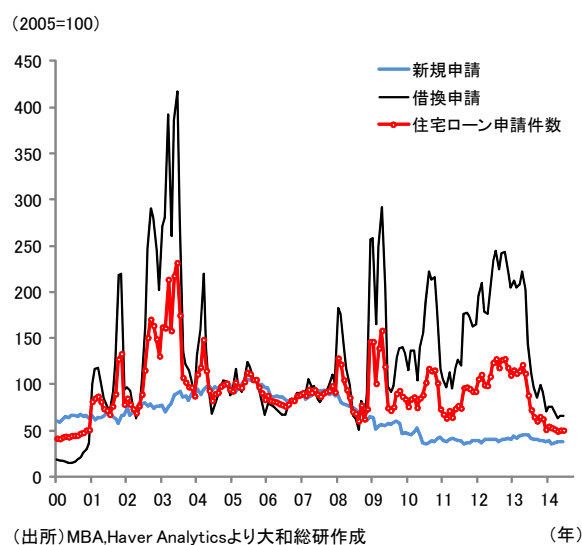
住宅市場

- ◆ 5月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比6.5%減となり、年率換算は100.1万戸であった。大幅に増加した前月から、4ヵ月ぶりの減少となった。
- ◆ 5月の中古住宅販売（一戸建て）は前月比5.7%増で、年率換算430.0万戸であった。2ヵ月連続で増加した。
- ◆ 5月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比18.6%増に大幅に増加し、年率換算で50.4万戸であった。50万戸を超えたのは2008年5月以来である。
- ◆ 4月の住宅価格は、緩やかに上昇。ケースシラー住宅価格指数（20都市）は、2008年4月以来の高水準になった。

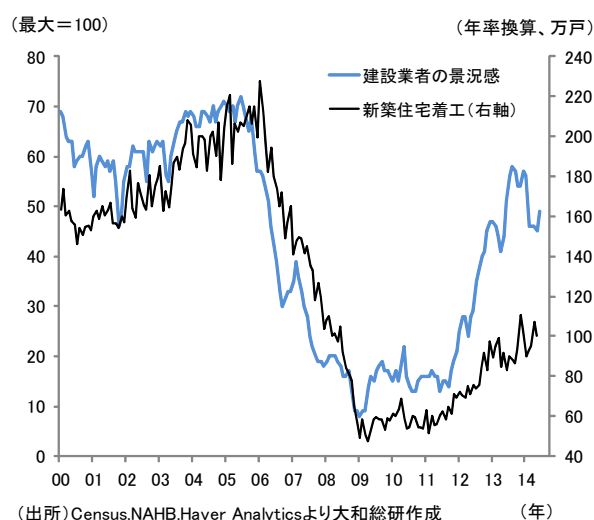
住宅販売（一戸建て）



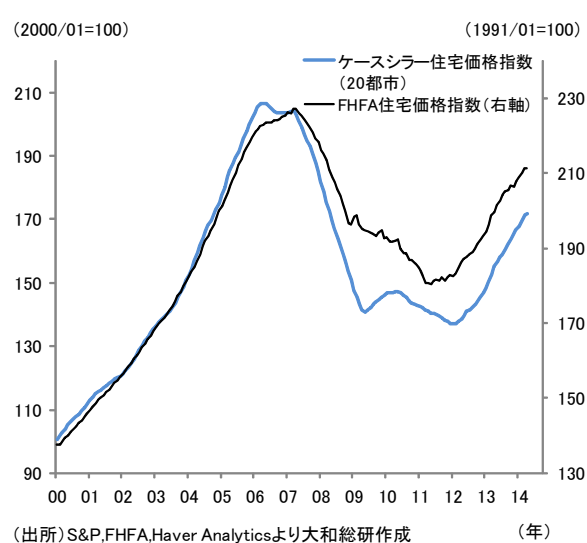
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



住宅価格



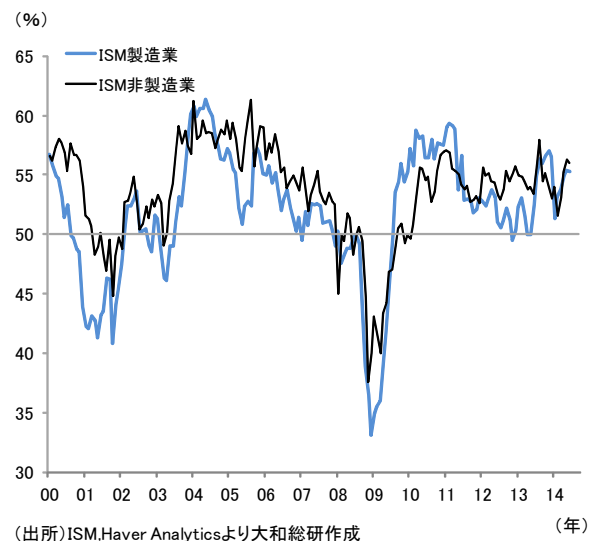
企業動向

- ◆ 5月の鉱工業生産指数は前月から上昇に転じ、前月比0.6%上昇した。指数全体の約75%を占める製造業も同0.6%上昇した。
- ◆ 5月の国防・民間航空機を除く資本財受注は増加に転じ、前月比0.7%増となった。
- ◆ 6月のISM製造業指数は前月比0.1%ポイント低下し、非製造業指数も同0.3%ポイント低下した。両指数ともに僅かに低下したが、企業の景況感の拡大を示す50%を上回っている。

鉱工業生産と設備稼働率



企業の景況感



製造業の出荷・在庫



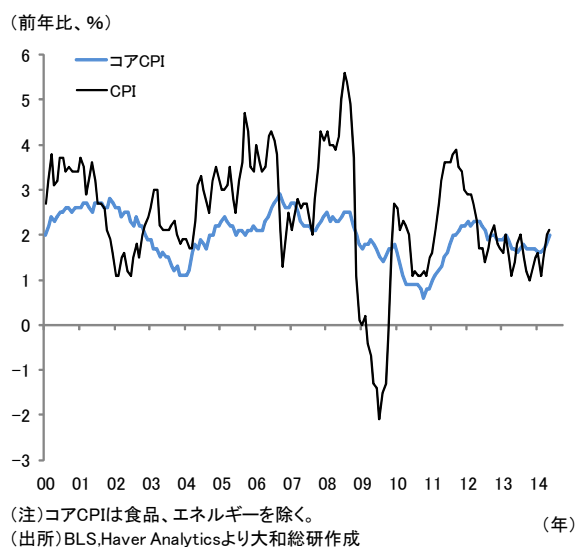
耐久財受注



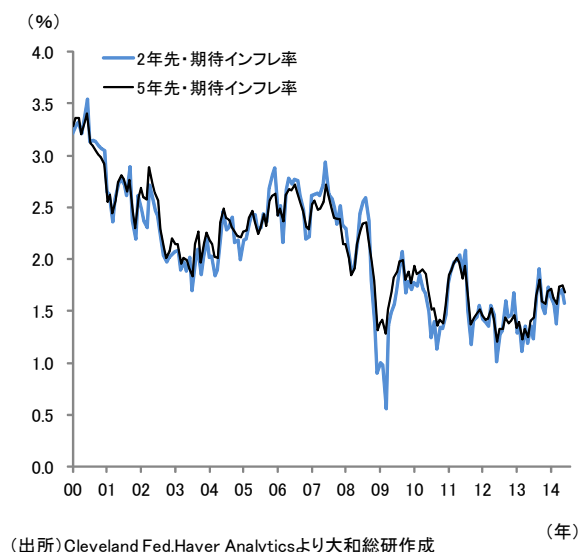
物価動向

- ◆ 5月のCPI（消費者物価指数）は前年比2.1%増で、コアCPIは同2.0%増。両指標ともに3ヵ月連続で上昇幅が拡大した。
- ◆ 6月の2年先及び5年先期待インフレ率は、ともに安定した推移が続いている。
- ◆ 6月末のWTI原油先物価格は105.37ドル/バレルと、5月末の102.71ドル/バレルから上昇した。イラク情勢の懸念などにより、2013年8月以来の高値となった。

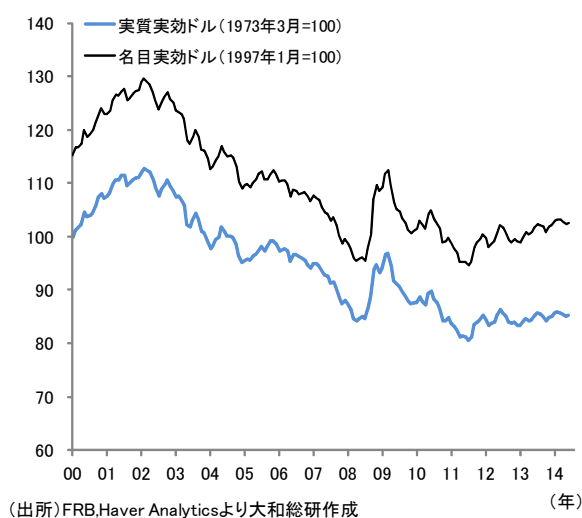
消費者物価指数



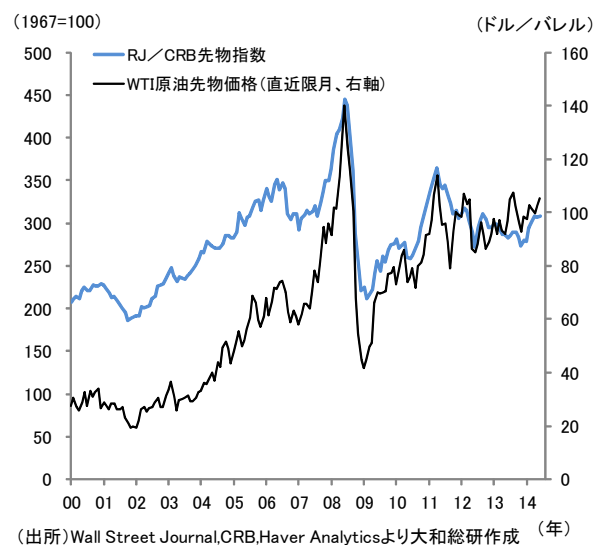
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



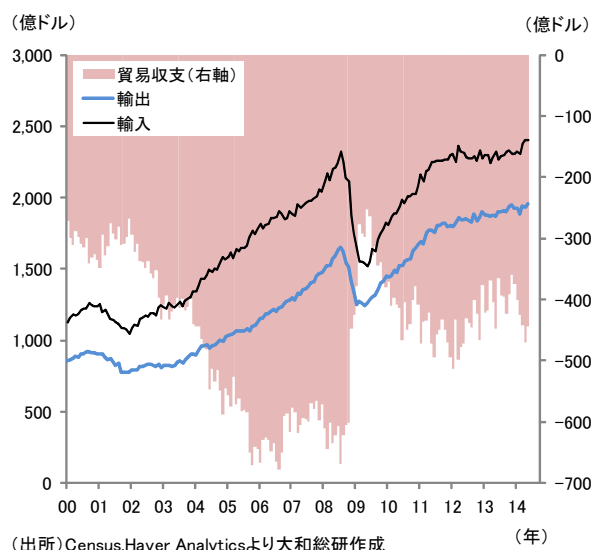
コモディティ価格



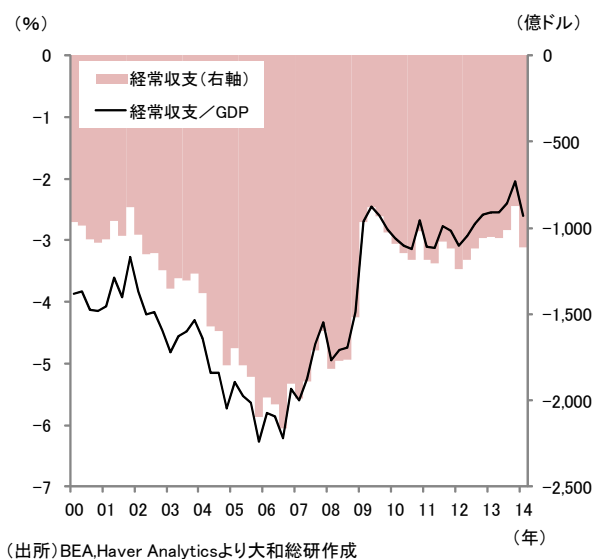
輸出入・経常収支

- ◆ 5月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.0%増加し、輸入は同0.3%減少した結果、約444億ドルの赤字となり、前月から赤字幅が5.6%縮小した。
- ◆ 地域別（財）では、中国、欧州向けの輸出が前年から増加し、それぞれ前年比5.4%増、同3.4%増であった。一方、日本向けの輸出は同5.9%減少した。輸入は、欧州からの輸入が前年比6.1%増で、中国からの輸入も同3.7%増加した。日本からの輸入は同5.3%減少し、減少傾向が続いている。

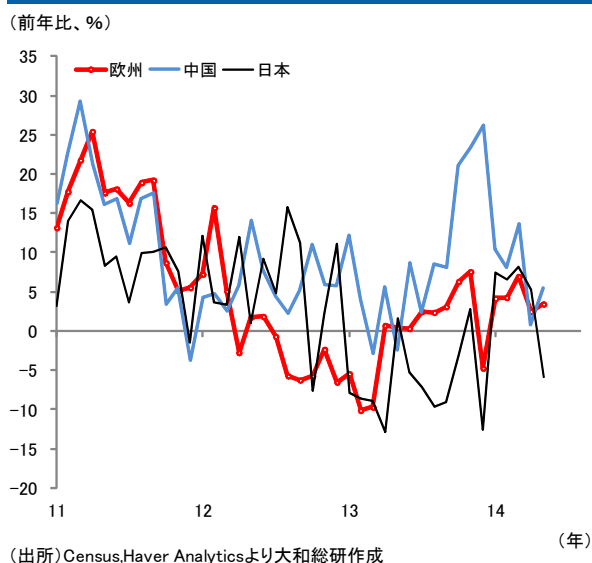
貿易収支動向



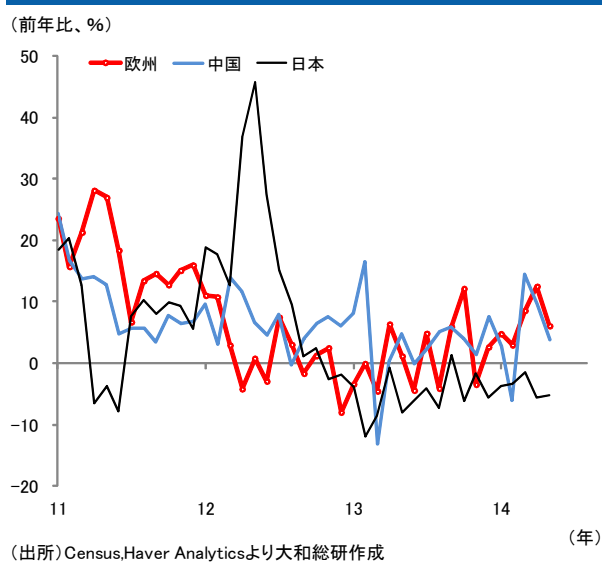
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



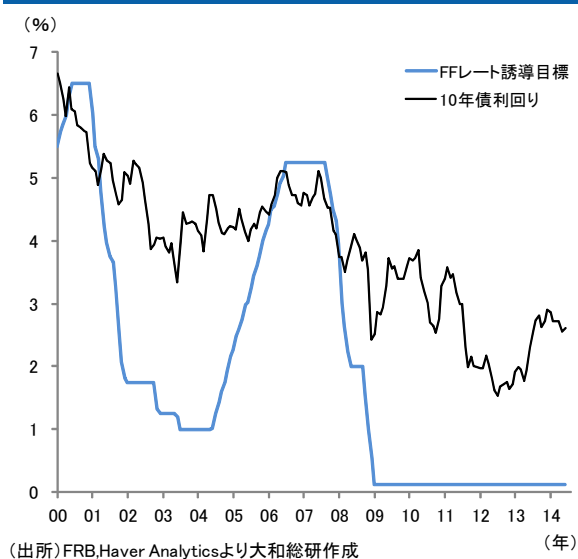
国・地域別輸入動向



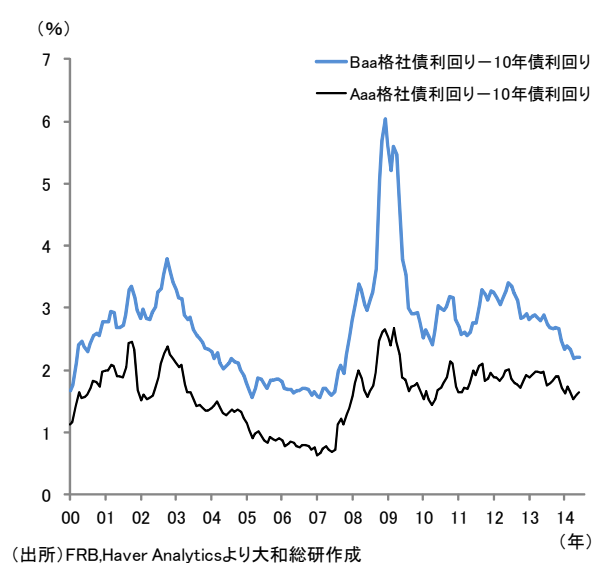
金融・財政

- ◆ 6月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.60%であった。
- ◆ 6月のFOMCにおいて、QE3（量的緩和第3弾）の縮小が発表され、7月からの毎月の資産買い入れ額は100億ドル減少し、350億ドルとなった。FRBの資産残高はQE3を受けて増加が続いており、直近の7月2日の週平均が約4兆4,200億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅の縮小が続いている。

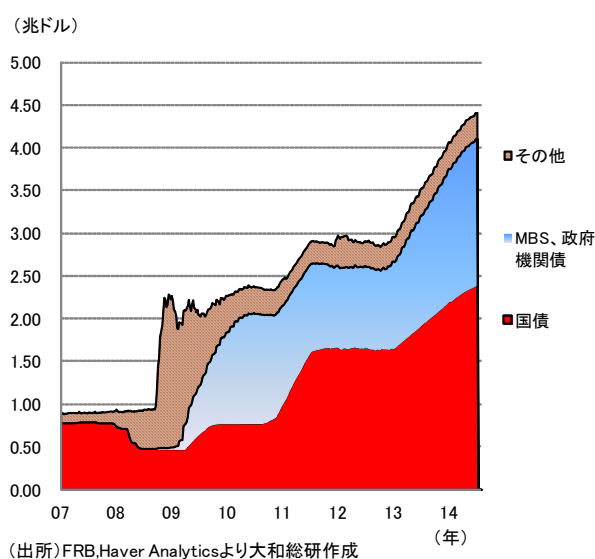
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

